

私の三十句

軌跡

奥山游悦

〈山河〉

五輪の火あまねく駈けよ初山河  
会釈する指先眩し初茶の湯

〈恐竜〉

流水の音軋みあふオホーツク  
恐竜に夢中のままで入学す  
俗界の重さを乗せて遍路笠  
日本の空が大好き鯉幟  
干潟見て津波を想ふ齡かな  
草餅の凹みのかたち母の指  
水みどりブルーージュ運河春深し

〈大海原〉

十指もて泉の脈をたしかめり  
遠泳や大海原に無一物  
枕木に汐の香りや夏の夕  
忘却を憎むてふ人原爆忌  
幾たびも部屋に来る母盆休み

絹羽織る繭の命の重さかな  
波裂けて盛夏の海のけものめく

〈屋形船〉

周平の世界に遊ぶ夜長かな  
洋館をめらめら燃やす蔦紅葉  
赤子泣く一斉に鳴く法師蟬  
秋灯を水面にこぼす屋形船  
霧まとふ幣舞橋に迷ひ入る  
ハーモニカ秋の野はもう俺のもの  
白萩や司法の道を選んだ日

〈星座〉

遺されし防災塔に寒月光  
冬蜂の辿りつきたる三和土かな  
水仙の沖に向かひて歌ふごと  
寒林に貼りついてゐる星座かな  
鈴鳴らすまでは揃はぬ神楽舞  
葉牡丹の渦やはらかに微笑みて  
神あがむアブシンベルの冬日向

（学友にして師である谿聲主宰のおかげで、人生の軌跡を俳句で辿ることができたことを感謝します。）